

国立市コミュニティワゴン試行運行～今後の進め方について（案）

■ 基本的な方針：

限られた車両数で一日当たりの利用者数を増やすためには運行頻度を上げ本数を増やす必要があることから、停留所の見直し、ルート短縮などを実施していく。

（１）青柳ルート

- ・基本的に矢川駅発着にし、終日 30 分間隔での運行・増便を検討
- ・一日に数本は市役所までの運行を検討（市役所からのくにごダイヤを考慮する等）。この便は市役所を終点にせず最短ルートで矢川駅に戻り次の矢川駅発の運行に入る。
- ・運行時間帯は現行を基本とする（概ね 8 時～18 時）
- ・利用状況を踏まえ、くにたち中央図書館、多摩障害者センター西、福社会館、国立郵便局、クリニックステーション前は休止とし、市役所乗り替えでのくにご利用、矢川駅乗り替えでの路線バス利用促進の検討

（２）泉ルート

- ・全便矢川駅発着とし路線を短縮することを検討。運行時間帯は現行の利用状況をみながら再検討
- ・谷保地域における短期試行運行との車両の共用を検討（仮称：甲州街道ルート）
- ・路線バスの充実
 - a) 泉団地発路線バスの最終便の繰り下げ（19 時台⇒21 時台）の検討・協議
 - b) 国立操車場発の始発便の繰り上げ（9 時台⇒7 時台）の検討・協議

（３）矢川・東ルート

- ・路線バスとの重複を減らし、さくら通りを主に運行することを検討（くにごバス停留所の流用）
- ・矢川北アパート南を起点の循環運行（運行ごとに回送としない）とし増便を検討
- ・谷保駅への乗り入れの検討・協議

（４）谷保地域における進め方

- ・7/4（土）午後に中平防災センター会議室で谷保地域におけるコミュニティワゴン試行運行をもとめる陳情者、自治会会長を交え谷保地域における需要等について意見交換会を実施した結果、3 中周辺からの利用については消極的な意見が多かった。一方、以前路線バスが運行されていた甲州街道については、一定の需要が期待された。
- ・（仮称）甲州街道ルート（谷保駅北停留所⇔甲州街道⇔矢川駅停留所間）の運行可能性の検討（課題：甲州街道に停留所を置けるかが利便性を大きく左右する）
- ・短縮した泉ルートの車両を共用して短期試行運行を実施し需要を確認

（５）その他総合的な交通施策の検討⇒試行運行の次の段階（平成 29 年度以降）

- ・自治会バスの需要確認・支援のための方策の検討
- ・サイクル&バスライド等、路線バスの利便性向上の検討
- ・高齢者用 3 輪電動自転車の貸し出し